

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	作業療法概論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部1年		学期	後期	教室名	803
担 当 教 員	林 辰博／吉岡 有理亜					
実務経験と その関連資格	林 辰博 作業療法士として総合病院に勤務し身体障害領域に従事。各種心身機能・活動・参加・環境に対する各種評価・作業療法を実施。 大阪府作業療法士会理事(災害支援・福祉用具)、日本作業療法士協会部員(教育部・地域社会復興部) 大阪市障がい支援区分審査員、東大阪介護保険福祉用具貸与・住宅改修調査員、JRATなどでも活動 生活行為向上マネジメント(MTDLP)基礎研修講師 (MTDLP実践者) 臨床実習指導者講習会終了、臨床実習者指導者講習会講師 作業療法士、公認心理士、教育学修士(専門職) 吉岡 有理亜 作業療法士としてさつき訪問看護ステーション、鶴見緑地病院(身体障害領域)に勤務。 作業を用いたリハビリテーションに従事。臨床実習指導者研修修了認定、MTDLP基礎研修修了。 インテリアケアプランアテンダント認定講師。					
《授業科目における学習内容》						
(1)作業療法理論・研究法・管理運営・倫理についての講義・演習によって必要性を学び理解してもらいます。(2)見学実習での担当事例を生活行為向上マネジメント(MTDLP)におけるアセスメントシート、プランシートを用いてまとめなおしてもらいます。まとめなおす過程を通じて、作業療法の流れを理解してもらいます。また、ICF(心身機能身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子)における相互関係を理解し、また作業療法の治療についてまとめてもらいます。						
《成績評価の方法と基準》						
(1) 60%、(2) 40% 定期試験 * (1)のみ 実技試験(レジュメ発表) * (2)のみ レポート * (1)(2)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
① 標準作業療法学 作業療法概論 第4版 ② 作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 ③ ICF 国際生活機能分類						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み予習。研究・理論・管理運営については終了後レポート。 見学実習で経験した症例に関する、概要・症状・作業療法について調べる。時間内かつ聞き手に分かるように発表できるよう練習する 研究・理論・管理運営については事前課題・事後レポートがあります。事前課題は、授業開始日の前日、レポートは授業終了後の次回授業開始時に回収します						
《履修に当たっての留意点》						
実習経験を同級生や教員と伝える事や改めて振り返ることで、実習中には考えられなかった事や深い理解が出来ます。 事例によって多くのことが学べ、深い理解が出来ます。みなさんの積極的な行動を期待します。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	見学実習の担当事例について、MTDLPにおけるアセスメントシートとプランシートを用いてまとめなおすことができる。		教科書①～③	見学実習で経験した症例に関する、概要・症状・作業療法について調べる	
	各コマにおける授業予定	授業概要オリエンテーション:授業の目的・目標と到達目標と評価方法について 演習方法の決定:個人 or 2人1組				
第2回	授業を通じての到達目標	作業療法に研究が必要な理由について説明できる		教科書①	作業療法概論教科書の通読 P.109～119 授業後レポート	
	各コマにおける授業予定	作業療法研究法について Ⅲ. 作業療法士の養成と教育：③ 作業療法研究とエビデンス				
第3回	授業を通じての到達目標	見学実習の担当事例について、MTDLPにおけるアセスメントシートとプランシートを用いてまとめなおすことができる。		教科書①～③	見学実習で経験した症例に関する、概要・症状・作業療法について調べる	
	各コマにおける授業予定	演習①-1:見学実習での事例情報をアセスメントシート・プランシートへの記載				
第4回	授業を通じての到達目標	作業療法における理論の役割・レベルを列挙し必要性について説明できる。		教科書①	作業療法概論の教科書の通読 P.74～83 事前課題：授業開始前に伝達 授業後レポート	
	各コマにおける授業予定	作業療法の理論について Ⅱ. 作業の分析と治療への適応：③ 作業療法の理論				
第5回	授業を通じての到達目標	ペーパー事例検討を通じて、アセスメント・治療のイメージが出来る。		教科書①～③	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 P.22～51	
	各コマにおける授業予定	演習②-1:事例情報をアセスメントシート・プランシートへの記載				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	ペーパー事例検討を通じて、アセスメント・治療のイメージが出来る。	教科書①～③	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 P.22～51
	各コマにおける授業予定	演習②-2: 事例情報をアセスメントシート・プランシートへの記載		
第7回	授業を通じての到達目標	見学実習の担当事例について、MTDLPにおけるアセスメントシートとプランシートを用いてまとめなおすことができる。	教科書①～③	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 P.22～51
	各コマにおける授業予定	演習①-2: 見学実習での事例情報をアセスメントシート・プランシートへの記載		
第8回	授業を通じての到達目標	作業療法が行われた理由についてICFの項目を関係づけ説明できる。	教科書①～③	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 P.22～51
	各コマにおける授業予定	演習①-3: 見学実習での事例情報をアセスメントシート・プランシートへの記載		
第9回	授業を通じての到達目標	作業療法が行われた理由についてICFの項目を関係づけ説明できる。	教科書①～③	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 P.22～51
	各コマにおける授業予定	演習①-4: 見学実習での事例情報をアセスメントシート・プランシートへの記載		
第10回	授業を通じての到達目標	発表において作業療法が行われた理由を聞き手に分かる(イメージできる)ように伝えることができる。	教科書①～③	時間内かつ聞き手に分かるように発表できるよう練習する
	各コマにおける授業予定	発表(実技試験: レジュメ発表) 【レポート: 提出日は授業内で伝えます】		
第11回	授業を通じての到達目標	発表において作業療法が行われた理由を聞き手に分かる(イメージできる)ように伝えることができる。	教科書①～③	時間内かつ聞き手に分かるように発表できるよう練習する
	各コマにおける授業予定	発表(実技試験: レジュメ発表)		
第12回	授業を通じての到達目標	作業療法部門の管理に必要なことを作業療法室の管理運営5項目を参考に述べる事ができる	教科書①	作業療法概論の教科書の通読 P.231～257 事前課題: 授業開始前に伝達 授業後レポート
	各コマにおける授業予定	作業療法管理運営について VI. 作業療法の管理運営: ① 社会保障制度の理解、② 作業療法部門の管理運営		
第13回	授業を通じての到達目標	事例情報を適切に分類し、問題点の焦点化ができる	教科書②	生活行為向上マネジメント(第3版)を熟読の上、各シート・項目の内容を再確認する
	各コマにおける授業予定	生活行為向上マネジメント事例演習		
第14回	授業を通じての到達目標	事例情報を適切に分類し、問題点の焦点化ができる	教科書②	生活行為向上マネジメント(第3版)を熟読の上、各シート・項目の内容を再確認する
	各コマにおける授業予定	生活行為向上マネジメント事例演習		
第15回	授業を通じての到達目標	事例情報を適切に分類し、問題点の焦点化ができる	教科書②	生活行為向上マネジメント(第3版)を熟読の上、各シート・項目の内容を再確認する
	各コマにおける授業予定	生活行為向上マネジメント事例演習		